

京都大学 大学院情報学研究科 知能情報学専攻

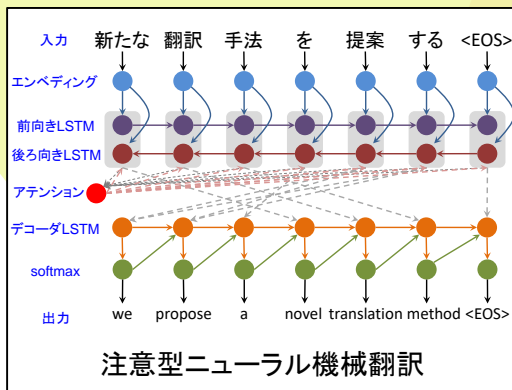
言語メディア分野(黒橋・河原研究室)

黒橋禎夫 河原大輔 柴田知秀 村脇有吾
中澤敏明 Fabien Cromières

本研究室では、言語の仕組み、それをを用いたコミュニケーションの仕組みを計算機が扱える正確さで解明するという理論的研究と、それによって情報検索、自動翻訳、マンマシンインタフェース等をより高度化して人間の活動を支援するという工学的研究を行っています。

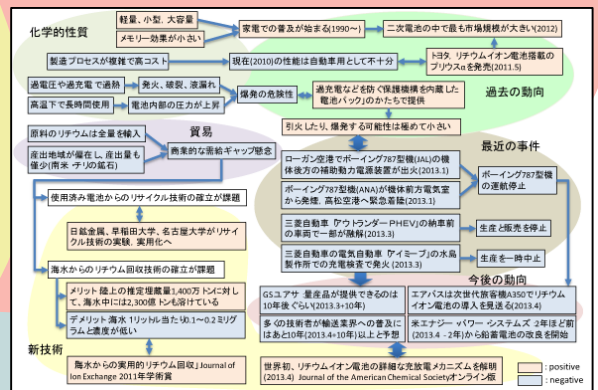
■ 自動翻訳

日本に住む外国人数の増加、企業の海外進出や、諸外国との科学技術交流の必要性などから、自動翻訳への期待と需要は年々高まっています。本研究室では構文解析を始めとする高度な言語処理技術に基づいた用例ベースの手法により、高精度な自動翻訳システムの構築を目指しており、科学技術振興機構や民間企業との共同研究を推進しています。



■ 次世代情報検索・分析

知識に基づく深い言語解析に基づき、様々なテキストの横断的な関連付け、検索、比較を可能とする知識インフラ構築の研究を進めています。また、注釈付与コーパス、辞書、言語解析システムの公開によって研究コミュニティによる一層の研究の加速を実現するとともに、これらの研究成果を企業のカスタマーセンター業務等に適用する実験を始めています。



■ 言語理解の基礎的研究



計算機による言語理解を実現するためには、計算機に常識・世界知識を与える必要があります。そこで、数千CPUのクラスター計算機を使って、Webから収集した日本語約150億文を処理することにより、日本語の未知語、語/句間の関係、述語項構造(誰が何をどうした)、事態間関係(何をしたら何が起る)などの知識を自動学習しています。

このような知識を利用することにより、計算機による文章理解(文章中の語/句間の関係性の解析)や自動翻訳・情報検索の高度化について研究を進めています。